わが社のイノベーション

GUNMA INNOVATION AWARD 2018

糸井商事の糸井丈之社長ら11人が「わが社のイノベーション」をテーマに、経営理念や企業の将来像について意見を交わした。

活発に意見を交わした（前列左から）永井さん、石井さん、糸井さん、吉田さん。（後列左から）串田さん、田中さん、相川さん、柴崎さん、岡田さん、江黒さん、大本さん＝上毛新聞社

経営理念

糸井 糸井商事は1946年創業で鉄鋼卸売と総合リサイクルを手掛けている。本業とは別にプロ野球BCリーグ・群馬ダイヤモンドペガサス球団の会長を務めている。ペガサスやGIAの活動は、根底に孫やひ孫の代に、寂れた古里を残したくないという思いがある。100年、150年と事業を継続できる企業になるために何を考え、どう行動すべきか。きょうは経営理念を話せればと思っている。

地域ニーズに敏感 糸井

いとい・たけゆき 1954年、高崎市生まれ。大学卒業後、製鋼会社勤務を経て79年に糸井商事入社。2001年から社長。プロ野球BCリーグ・群馬ダイヤモンドペガサス球団会長も務める

出席者

糸井商事	糸井丈之社長
オオラ美装	岡田勇一社長
クスリのマルエ	江黒太郎社長
セントラルサービス	大本　寛社長
永井酒造	永井則吉社長
メモリード	吉田卓史社長

100年企業を目指す

女性など活躍期待 大本

おおもと・ひろし 1977年、水戸市生まれ。99年セントラルサービス入社。入社後2年間請負スタッフとして製造現場に従事。その後、複数の営業所責任者を経て、2015年から現職

大本 セントラルサービスは群馬と神奈川を中心に人材派遣や職業紹介などを行っている。正社員を希望する人には伴走しながら面接の仕方など基礎を習得してもらい、派遣先や当社で正社員にステップアップできるような制度を整えている。ベトナム人の技能実習生を活用する組合をつくり、法令順守を第一義に県内の製造業を中心に紹介している。終了後はしっかりと母国に送り、母国で活躍できる人づくりに注力している。

岡田 オオラ美装は主に工場のメンテナンスを行ってきた。その関係でリフォームやマットリースもこなし、今では人材派遣、訪問看護サービスなども手掛けている。11月1日には太田に支店も開設した。人手不足が叫ばれる中、対策として、子ども世代に親が生きる姿を見せるという方法もあると考えている。親が生き生きしていると、子どもも地元で働きたくなるのではないか。

チャレンジ続ける 岡田

おかだ・ゆういち 1972年、福岡市生まれ。邑楽町で育ち、大学卒業後、ノンバンク系金融機関勤務を経てオオラ美装に入社。ビルメンテナンス業務などを経験して営業部長、副社長を歴任し、2009年から現職

永井 日本酒はライフスタイルが変化する中、進化が滞っていたが、1992年に税や品質表示の制度が変わり、永井酒造は「水芭蕉」ブランドを立ち上げた。ワインの世界に通用する酒を目指して「時間」「場所」が価値になるビンテージの研究を始め、食前酒の必要も感じて発泡日本酒「awa酒」を開発した。世界基準の品をチームで作るために協会を立ち上げ、理事長を務めている。awa酒をまずは東京五輪・パラリンピックでの乾杯酒にしたい。

五輪の乾杯酒に 永井

ながい・のりよし 1972年、川場村生まれ。95年に永井酒造に入社。専務取締役工場長を経て2013年に社長。世界基準を設定した「awa酒協会」を16年に設立し、理事長を務める

江黒 クスリのマルエは群馬を中心にドラッグストア54店、調剤薬局11店を持ち、英語教育を行う託児所も運営している。戦後、祖父母が日用雑貨を引き売りしたのがスタートで、51年に会社を立ち上げた。私で4代目になる。美と健康を事業の中核に置き、ドラッグストアにとらわれずに事業を展開していく。社内には女性社員が多く、育休明けの時短制度の見直しを検討している。

吉田 メモリードは50年前、長崎で創業し、関東に進出して40年になる。関東の本社は前橋だ。グループで結婚式場40館、葬儀場13館、ホテル10館などを運営している。少額短期保険も手掛け、子会社をつくって葬儀費用が賄える生命保険を提供している。全国展開していて国内一の規模だ。中高年を中心とした会員制複合施設も来春、高崎市で開設する。さまざまな世代が集うコミュニケーションの場にしたい。

現有店の機能充実 江黒

えぐろ・たろう 1976年、前橋市生まれ。国内の大学を卒業後、米国で経営学修士取得。国内大手製薬会社で営業、海外事業、マーケティングを経験し、2010年にクスリのマルエに入社。16年から現職

糸井 存在価値のある企業であり続けるには、地域や顧客の要望をどれほど敏感にとらえられるかだ。仕事は広がりや深みを追求していく。人手不足の事業所と求職者をつなげ、雇用を純粋に増やす手伝いをしたい。

岡田 邑楽町で育った企業だが、群馬にいる以上、高崎や伊勢崎などの中心に進出したいと考えている。チャレンジする姿を示し続ける意味もある。事業の基盤を整えつつ、深みも追求していきたい。この場の皆さんにご協力をお願いするかもしれない。

葬儀に情報通信技術 吉田

よしだ・たかし 1971年、長崎市生まれ。97年、冠婚葬祭業のメモリードに入社。常務、専務、副社長を歴任し、2014年から現職。関連企業の代表も務める。趣味はトライアスロン

永井 地元の川場村は昔ながらの美しい自然が残り、独自性や力強い潜在力を感じる。それを酒に込めるのが使命。食前酒から食後酒のラインアップをパリの最高級ホテルでプレゼンしたら、魅力を心で感じてもらったようで、採用が決まった。地元で支持される取り組みも並行したい。

江黒 人口減少時代を迎え、店舗数を増やすのは最善ではない。地域に根差して今ある店の機能を充実させていきたい。また先代が「元気になって帰れる場」として、ウエルネスパーク構想を温めていた。どんな形になるか分からないが、踏み出していきたい。

吉田 新しい価値の創造と最高のサービスの提供を通して地域貢献するのがモットー。現在、情報通信技術を活用したイノベーションを葬儀分野で模索している。海外にいる友人もその場で葬儀に参列し、香典も送れるようなシステムを年内にスタートさせたいと考えている。

未来に向けて

出席者

相川管理	相川北斗専務
石井設計	石井繁紀社長
うすい学園	柴崎大海副社長
クシダ工業	串田洋介社長
ル・ソレイユ	田中泰亨社長

社員で価値観共有 串田

くしだ・ようすけ 1979年、高崎市生まれ。2009年クシダ工業入社。15年から現職。17年エルスピーナホールディングスを設立し、代表取締役社長就任。同年、システム開発会社のエルスピーナヴェインズを共同創業

串田 建設業の中でも建設設備業と呼ばれる分野がクシダ工業の中心になる。社会インフラに直結することが多く、改めて重要性を感じている。特に自然災害が多くなってくると、人を守り、危機管理するという点からも、周囲から見直してもらっている。人材不足が叫ばれているが、当社の価値感に共感してくれる人が増えている。いかに巡り合い、チームになれるかが勝負だ。

学校より一歩前へ 柴崎

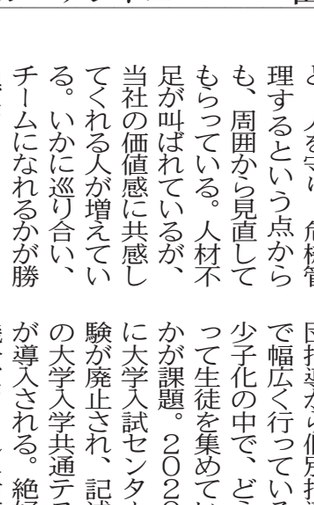
しばさき・おおみ 1982年、安中市生まれ。大学卒業後、他の学習塾勤務などを経て、2011年、うすい学園に入社。12年から教室長、18年から現職

柴崎 うすい学園は現在、県内では安中市から太田市まであり、埼玉県にも進出している。小学生から大学受験生までが対象で、集団指導から個別指導まで幅広く行っている。少子化の中で、どうやって生徒を集めていくかが課題。2020年に大学入試センター試験が廃止され、記述式の大学入学共通テストが導入される。絶好の機会だ。これに対応できるところが生き残れるだろう。

石井 石井設計を核に3社のグループで、建築設計から都市デザインまで手掛けている。アベノミクス効果で建設業界は良いと言われているが、オリンピック特需も加わり材料費や工事費が上がってしまい、地方都市では投資活動が厳しい一面がある。選ばれる事務所であり続けるには、より価値を高めていく必要がある。

田中 ル・ソレイユは接骨院・整骨院グループをベースに事業展開している。接骨・整骨院はけがの痛みを治す治療家を育成。介護事業やジム、エステも経営している。けがの予防、体のケア、健康維持といった体づくり、健康な生活のお手伝いが私たちの仕事。年明けには、セントラルウェルネスクラブ高崎内にも整骨院をオープンする予定だ。

相川 相川管理は建設業の中で特殊な業務を行っている。老朽化した水道管の中に、樹脂を注入して、管の中に管を作る仕事や、JRの排水路の補修など、競合の少ない分野だ。ノウハウが必要な業務なので、人材はすぐには集まらない。人が足りなくて仕事を取れなかったこともある。技術を習得した人を生かす方針でやっている。



顧客の価値上げる 石井

いしい・しげのり 1964年、前橋市生まれ。大学卒業後、2004年から石井設計、石井アーキテクトパートナーズ社長を務め、15年に石井アーバンデザインリサーチを設立

串田 建設業の中で特殊な業務を行っている。老朽化した水道管の中に、樹脂を注入して、管の中に管を作る仕事や、JRの排水路の補修など、競合の少ない分野だ。ノウハウが必要な業務なので、人材はすぐには集まらない。人が足りなくて仕事を取れなかったこともある。技術を習得した人を生かす方針でやっている。

柴崎 学校より一歩先を行くことを目指している。学校の補習では習得率が上がらない。グループ討論などで人に説明すると身に付く。

石井 昨年ビジョンを設定し、「アーキテクチュア・イノベーション」と名付けた重点課題に取り組んでいる。時代や社会の要請を取り込んだデザインや、3次元設計、エネルギーゼロなどを目標としている。顧客企業の価値を上げる提案を行い、100年先を見据えたアーバンデザインで社会貢献していきたい。

田中 日本人はものづくりの技術でも治療、施術の技術でも世界トップレベル。この接骨の技術で、将来的には海外進出も狙っていきたい。2045年には平均寿命が100歳を超える予測もある。平均寿命であって健康寿命ではない。「介護されない体づくり」をテーマに、ひなた整骨院グループでは、他社ではできないことを目指してやっていきたい。これからのイノベーションに注目してほしい。

健康のメソッドを 田中

たなか・ひろゆき 1973年、太田市生まれ。柔道整復師。2005年、伊勢崎市で「ひなた接骨院」を創業。整骨院、介護、エステ、トレーニングジムなど健康事業に特化して店舗展開している

相川 当社の業務が、ある意味イノベーションだ。老朽化した水道管を掘り返さずに再生することで、道路工事渋滞を減らせる。ただ、特殊技術なので人材育成は時間がかかる。発想を変えて、長くいてもらえる会社を目指す考え方もある。数社しかできない技術を守っていきたい。

特殊技術を守る 相川

あいかわ・ほくと 1978年、安中市生まれ。大学卒業後、金融機関勤務を経て、2005年、相川管理に入社。18年に専務に就任。関連会社の関東技建の社長を務める